



No.76 2003.2

発行 京都府立医科大学

〒602-8566 京都市上京区河原町通
広小路上ル梶井町465
TEL 075-251-5208 FAX 075-211-7093

平成15年知事年頭あいさつ

挑戦しなければ、前進はない ～明日の京都へ挑戦～

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、新年あけましておめでと
うございます。

皆さまとともに新春を迎えられましたこ
とを心からお慶び申し上げます。

私は昨年、荒巻府政の継承と発展、そし
てそのための府庁の改革を掲げ、第47代京
都府知事に就任いたしました。その後直ち
に、中小企業の方々をはじめ府民の皆さま
の現下における厳しい状況に対応するため、
雇用・不況対策や府民生活に重大な脅威を
与えている産業廃棄物・不法投棄対策など
緊急課題に積極的に取り組むとともに、当
面する様々な課題に対処するため、雇用創
出・就業支援や地球温暖化防止など、福祉・
環境・教育・産業育成等について新しい施
策づくりを進めてまいりました。

我が国の社会・経済情勢は依然として深
刻な状況にあり、未だ曙光を見出せずにい
ます。それだけに、府民の皆さまの生活を
守り、ともに歩む地方自治体の役割と責任
が一層重さを増す中、私は皆さまの声や思
いを大切に、開かれた透明な府政の推進
に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考
えております。

そのために本年もまた一歩、明日に向か

って邁進することが必要です。京都縦貫自
動車道綾部宮津道路の開通や京都第二外環
状道路、第二京阪道路の整備など交通ネッ
トワークがその姿を見せてきました。関西
文化学術研究都市では、昨年の国立国会図
書館関西館の開館に次いで、就業体験等の
拠点となる「私のしごと館」が開館するな
ど、新たな発展段階を迎えようとしていま
す。さらに3月には「第3回世界水フォー
ラム」が開催され、古くから水との関わり
を大切に、水の文化を育んできたここ京
都から水問題や環境問題解決へのアピール
を世界に向けて力強く発信してまいります。

一方、昨年うれしいニュースもありま
した。京都の企業に在籍する田中耕一さん
のノーベル化学賞受賞です。伝統に裏打ち
され、その上で進取の気風に富む京都の潜
在力の大きさを目の当たりにし、私たちは
大いなる勇気と将来への希望を与えられま
した。

私たちの京都は、丹後地域から相楽地域
まで、自然、歴史、風土、伝統、文化、学
術、産業など、日本や世界に発信できる
「力」を示してまいりました。私は、さら
にこの「力」と、それを支える人々をむす



びあい、ともに豊かな伝統と文化の上に新
たな時代の京都を創造し、アジアはもとよ
り世界に発信していくことで、京都の未来
は大きく拓けるものと確信いたしております。

私は「挑戦しなければ、前進はない」と
思っております。今後も、皆さまとともに、
躍動感あふれる明日の京都府づくりに邁進
してまいる決意であります。

新年にあたり、皆さまの変わらぬご支援
をお願いいたしますとともに、ご健勝とご
多幸を心からお祈り申し上げます。

目次

1 知事年頭のあいさつ	1	7 特集	
2 学長年頭のあいさつ	2	こんなことができます！糖尿病看護認定看護師	10
3 教授就任のあいさつ	3	8 お知らせ	
4 大学院重点化について	4・5	・人権啓発研修	11
5 廃棄物処理システムの移動について	6	・防災に関する取り組みについて	11
6 学内ニュース		9 医大2002年を振り返って	12
・公開講座(報告)	7		
・トリアス祭(報告)	8		
・医療安全対策研修会	9		

学長年頭あいさつ

2003年の新春を迎えて

学長 井端泰彦



本学構成員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

私も平成12年4月1日より学長を拝命し、早くも2年9ヶ月が過ぎました。その間に皆様からいろいろと御支援いただきましたことに厚く感謝申し上げます。

昨年我が国は相変わらずの経済不況が続き、失業率も6%に昇ろうとしており、地方自治体はどことも給与の削減が行われ、京都府も初めての給与削減を打ち出しました。政治につきましても、小泉内閣は相変わらず構造改革を打ち出し一定の支持率を得ておりますが、具体的に何をやるかが見えてこない一方、野党にも明確な政治理念と政策が見られず、政治の先行きは全く渾沌としております。衆議院議員の中に汚職疑惑や経理の不明確性による引責辞任も相次ぎ、国民の一層の不信感を生み出しました。国際的にもアフガニスタンへの軍事攻撃に引き続きいろいろの地域での無差別テロの発生、イラクへの軍事査察など数えればきりがないくらいの不安材料が満ちております。我が国が直接関連することにも北朝鮮の拉致問題があり、日朝交渉が成立してもまだまだ解決にはほど遠い状況であります。そんな中で昨年のノーベル物理学賞に小柴昌俊氏が、化学賞に田中耕一氏がダブル受賞で選ばれ、化学賞は3年連続という快挙であり、科学技術立国を目指す我が国としては大変喜ばしいことであります。

本学は昨年4月より医療技術短期大学部が新しく4年制の看護学科として生まれ変わり、看護学科の教育研究の充実を図るよ

うになりました。これにより本学は医学部の中に医学科と看護学科の2つの学科を持つことになりました。また、大学院教育研究の成果を一層あげるために一昨年の夏頃より準備を進めてまいりました大学院の再編による重点化が大学設置審議会で審査のうえ、昨年12月19日に文部科学省の承認を受け、1専攻6分野に生まれ変わり、今年4月1日に大学院重点化による大学院教育研究が開始されます。

学部学生につきましても、卒前教育のカリキュラムが大きく変わり、どの大学でも共通となるコアカリキュラムの導入やコンピュータによる臨床実習前の共用試験の導入など大きく変化します。医師国家試験にも実技テストの導入や卒後研修医制度も大きく変わろうとしております。

現在、国公立いづれにかかわらず、どこも変革が求められております。中でも公立大学はより地域に密着する大学として設置者及び住民に対する説明責任が問われ、それを通して住民の理解と支援が得られるわけであります。本学は医学、医療、看護を通じて今日まで京都府民の人達の生命を守り、健康維持に多大の貢献をしてまいりましたが、今後、少子高齢化が進む中で特に高齢者の方々の看護や介護に新しい医療を展開する必要があります。

本学は病院長のもとに病院管理運営会議が設けられ、昨年2名の院長補佐も設けられ病院運営の円滑化と効率化を図っておりますが、オーダリングシステムやボランティアシステムも順調に進行しております。一方、学長を中心とする附属病院経営改善推進会議を設け、患者さんの在院日数の短縮、紹介率の引き上げ、病病連携、病診連携の推進により病院への府からの繰入金削減を図るべく努力しております。また、平成16年4月から研修医義務化により、本学における研修医数の削減が予想されますが、その対策も非常に重要であります。

また、現在、昭和36年に建設された外来棟をはじめ臨床研究棟や精神病棟が老朽化、狭隘化しておりますが、昨年、外来診療棟

等整備について基本構想費を認めていただき、設計会社も設定いたしました。今年度、基本計画に続いて設計、施工が順調に進むよう願っております。

皆様も既にご存じのように国立大学は平成16年4月から国立大学法人化法という法律の下に一大学一法人として生まれ変わります。その場合、現在100校ある国立大学のいくつかを統合することにより大学数が減少いたします。公立大学も例外ではなく遅かれ早かれ法人化が行われると考えられますが、現在、東京都、兵庫県、大阪府に設置されている公立大学はそれぞれ統合され、一つの大学になることが決定されております。京都府の大学のあり方については現在、設置者、大学関係者、有識者、他の人々から構成される「府立の大学あり方懇話会」におきまして種々議論されているところですが、本学が将来どのような大学を目指すのかについてのしっかりしたビジョンと将来設計を確立する必要があります。

独立行政法人になりますと、設置者から一定の交付金を受ける以外は診療収入と産学公連携による企業からの寄附金や、文部科学省、厚生労働省等からの研究費の獲得により大学運営を行うわけですが、一方で教職員の兼業等種々の規制が緩和され運営も機能化、効率化されると考えられます。しかし、運営経費にマイナスが出た場合は大学独自で解決を図らなければならず、同時に責任の度合いも大きくなります。いづれにしても足腰の強化を図り外部評価に充分耐え発展が期待される大学にしておかなければなりません。そのためには、大学人全員一丸となつての意識改革が求められますし、自分の仕事に自覚と責任を持ち、持ち場持ち場でベストをつくし大学を押し上げていくという気概が大切であります。今年も昨年に続きなかなか多事多難な年となりそうですが、健康に留意され、それぞれの職場で精進していただきたいと思っております。

皆様の御健勝と御多幸を祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。

教授就任あいさつ

ゲノム医学から個別化治療へ

臨床検査医学教室教授 谷脇雅史



平成15年1月1日より臨床検査医学教室を担当させていただくことになりました。臨床分子病態・検査医学教室として再出発しますことの重要性を認識しております。私は、昭和51年に本学を卒業後、第三内科（増田正典教授）に入局し、瀧野辰郎教授に続きまして加嶋敬教授のご指導を受け消化器病学と血液学を専攻、悪性腫瘍、特に造血器腫瘍の診療と研究に従事いたしました。当時、治療する症例はまだ少なく、複数の抗がん薬を大量に投与した後に主治医が献身的に管理するという体力勝負の側面が強かったと思います。また、現在でも、骨髄移植の成績は担当医の努力に左右されるといっても過言ではありません。

しかし、理想的な治療法は、安全に施行できて原因に特異的であるべきではないでしょうか？また、症例にはそれぞれに適した治療強度や方法があります。血液腫瘍を綿密に治療する一方で、病因の解明や診断法の開発に力を注ぎましたのは、このような考えに加えて、分子生物学や細胞遺伝学の飛躍的な進歩という時代的な背景があったからだと考えております。平成元年に、衛生学教室阿部達生教授のご推薦でフンボルト財団研究員として留学したハイデルベルグ大学人類遺伝学研究所で、遺伝子再構成を細胞核で検出する方法を開発したことから、研究は急速に展開しました。帰国後に、免疫グロブリン遺伝子の全塩基配列解読をリードしていた京都大学から人工酵母染色体を供与いただきましたことは、大変幸運であったと思います。その結果、リンパ腫と骨髄腫の新しい遺伝子診断法を開発、Blood や Nature Genetics にいくつかの論文を発表し、厚生省や文部省の研究助成を受けることができました。

このような DNA 診断や遺伝子発現プロファイルは、また、造血幹細胞移植やモノ

クローナル抗体の適応、分子標的薬の開発に重要な情報となっています。臨床分子病態学は、基礎研究の成果を直ちに診断や病態解析に導入する先端的で実質的な学問と定義できるかも知れません。本年の4月にはヒトの設計図である DNA の全塩基配列が完全に解読されます。従って、それを診療に生かす「ゲノム医学」へと検査医学は変貌していくべきではないかと考えております。検査の精度管理や情報整理の重要性は論を待ちませんが、個別化治療を実現するうえで、診断から治療までの一貫性は欠かせません。各科が効率的に連携する新しい機構の確立が望まれます。

それ故、創造的な人材の育成も重要な任務の一つです。また、国内外を問わず共同研究の重要性を認識しております。吉村学教授が築かれましたご業績を基盤と致しまして、理想的な医療の構築に些かなりとも寄与したいと考えます。医局員の先生方や検査部の方々と協力し目標を達成したいと思っておりますので、何卒、皆様方のご支援をお願い申し上げます。

大学院教育研究体系の再編（大学院重点化） 文部科学省から認可される

平成15年4月に向けて取り組んできた大学院の教育研究体系再編（いわゆる大学院重点化）について、12月11日付けで文部科学省の大学設置・学校法人審議会から文部科学大臣に答申がなされ、12月19日に文部科学省から承認書の交付（認可）がなされました。

その後、井端学長、伏木研究部長は池坊保子大臣政務官と懇談され、本学の大学院教育研究体系の再編を始め、COE や外来診療棟・臨床医療・教育研究施設建設など、本学の重点課題について語られました。

この認可を受け、平成15年4月1日から本学は、大学院を中心とした教育研究組織として、新たにスタートすることとなります。



池坊大臣政務官室にて（右から池坊大臣政務官、井端学長、伏木研究部長）

1 再編の目的

- (1) 急速に発展する医学・医療に対応できる優れた医師・医学研究者の育成
高度化している地域の医療ニーズに的確に対応できる人材養成
- (2) 将来にわたる優秀な学生・大学院生の継続的確保
地域の医療現場に優秀な医師を安定的に供給できる体制の確保
- (3) 産学公連携の推進と国の科学研究費等の確保
広く地域全体に貢献できる体制の整備、先端的な研究に係る財源の確保

2 大学院重点化の概要

(1) 大学院中心の教育研究組織に再編し、大学全体の広領域化・横断化を推進

【大学院重点化】 大学院の専攻を統合再編の上、これを基礎とした教育研究組織
 (高度・先進的医療の展開、最先端医学の追究)

↑
【現 行】 学部の講座・教室を基礎とした教育研究組織

(2) 大学院医学研究科専攻の再編

【1専攻～『統合医科学』～に統合】 医学系国立大学で初めて
 (教育研究の融合、全科目の履修が可能、優秀な医師・医学研究者の育成)

↑
【現 行】 5専攻(社会医療系、生涯医療系、生体制御系、生体情報系、代謝調節系)

大学院医学研究科専攻の再編の具体的な内容

【現 行】

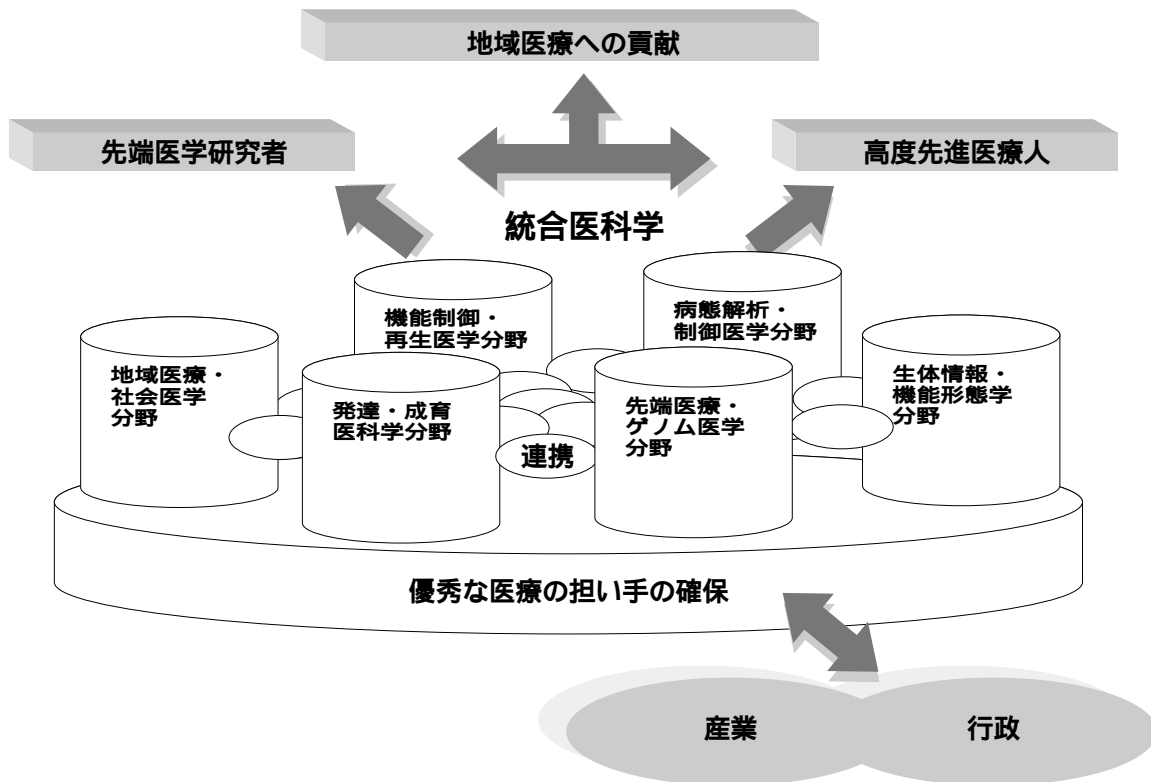
専攻	部門
社会医療系	2
生涯医療系	4
生体制御系	4
生体情報系	4
代謝調節系	6
5専攻	20



【大学院重点化】

専攻	分 野	科 目
統合医科学	地域医療・社会医学分野	11
	発達・成育医科学分野	4
	先端医療・ゲノム医学分野	12
	生体情報・機能形態学分野	4
	病態解析・制御医学分野	8
	機能制御・再生医学分野	11
1専攻	6分野 (58科目)	

(3) 大学院入学定員の増 (54名 70名)



廃棄物処理システムの稼働について

本学では、これまで大学や附属病院から出る燃えるゴミ（一般廃棄物及び感染性廃棄物）の処理については、病院地下に設置の焼却炉2基を使って燃やしていましたが、焼却炉の著しい老朽化や平成14年12月1日以降の既存焼却炉のダイオキシン濃度排出基準の対応が困難であったことから、焼却炉を撤去し、その跡地に廃棄物を滅菌・破碎等処理する装置を設置し、昨年12月1日から運転を開始し、ゴミの処理を行なっています。

廃棄物処理システムとはどのようなものですか

- ・ 廃棄物処理システムは、大きく分けて感染性廃棄物等を滅菌・破碎する装置とジュース・お茶の空き缶、空きビン、ペットボトルをアルミ缶、スチール缶、ビン、ペットボトルに自動分別し、圧縮等処理する装置及び計量装置で構成されており、1時間当たり約2,000リットルの滅菌処理が可能です。
- ・ 廃棄物処理システムでゴミを処理することによって、①滅菌処理による学外に搬出するゴミの安全化、②破碎等処理による「かさ」の減量化、③自動分別等処理によるリサイクル化の推進、④滅菌・破碎処理による処理経費の削減、などが図れます。

廃棄物処理システムの導入によって分別収集方法は変わるのですか

これまでは、一般のゴミと感染性のゴミをそれぞれ燃えるゴミと燃えないゴミに分け、さらに空き缶・空きビン、ペットボトル及び弁当がらにそれぞれ分別してきました。

廃棄物処理システムの導入により、一般ゴミと感染性のゴミを分別することについては従来と同じですが、①感染性のゴミは、ビニール袋を突き破る心配がないものは黄色のビニール袋に入れ（液状のものが含まれている場合は、袋を二重にし、新聞紙等を入れ、漏れないようにすること。）②それ以外のゴミは、蓋付きプラスチック箱（バイオハザード）に入れ、必ず蓋をして所定の場所に置いてください。

③一般ゴミについては、基本的にはお茶、コーヒー、ジュースの空き缶、空きビン、ペットボトルとそれ以外のゴミという分別収集方法となっております。

④なお、従来どおり新聞、雑誌等は十字にひも掛けし、書類等は、段ボール箱に入れ、ガムテープで封をし、旧臨床講義棟の新聞紙置き場に出してください。ゴミの減量化とリサイクル化の推進のため、紙製品の分別に御協力ください。



ジュース・お茶の空き缶、空きビン、ペットボトルを自動分別し、圧縮等の処理を行う装置の投入口



ゴミを滅菌・破碎する装置の投入口付近



廃棄物処理システムの導入により、新に設置したゴミ箱

学内ニュース

平成14年度京都府立医科大学 公開講座を振り返って

平成14年度京都府立医科大学公開講座については、前号で御紹介しましたように、10月19日(土)に「看護は、あなたの人生の心強いサポーター～あなたと考えるよりよき老後の備え～」というテーマで開催したところですが、11月10日(日)には、本学図書館ホールにおいて「子どもの健やかな成長を支える」というテーマで開催いたしました。

本学の4名の先生方により、「キレる子どもの心」、「子どものおなか痛」等の内容

で講義が行われ、子どもを持つ若い親御さん達を中心として、幅広い年齢層の方々に参加いただきました。講義に耳を傾けながら、真剣にメモを取られるなど、子どもの健康や成長といった問題への関心の高さが伺えました。

少子化の中で、子どもたちを取り巻く環境は多様化してきており、「不安が和らいだ」、「大変わかりやすく、これからの生活に役立てたい」等、好評でしたが、実際に子育てをしている方々にとっては、地域の

中でもっと子育てをしやすい環境を作っていかなければとの思いを深められたようでした。

今回は、看護学舎に保育室を設け、小さいお子さんを預けて安心して講義に参加していただけるようにいたしました。今後とも、参加いただきやすい環境づくりも配慮しながら、府民の皆さんの要望にお応えできるよう努めていきたいと思っております。



講演の様子



熱心に受講する参加者の皆さん

学内ニュース

2002年度トリアス祭を終えて

やっと終わった・・・これは私たち実行委員がトリアス祭を終えて率直に感じたことです。

実行委員会が3月に発足して以来、たくさんの方々の時間をトリアス祭開催のために費やし、生活がそれを中心に回っていた、といっても過言ではありません。大勢の人が関わり、全員が本祭直前には寝る間も惜しんで作業を続けることもありました。そのようなことを通じて、開催の意義だけでなく、先輩方が引き継いでいらした、その伝統が理解できたと考えております。

本年度のトリアス祭を開催するにあたって、その最大のテーマ、学生、教職員の方々、患者さん・府民のみなさん、この三者の融和、にまず立ち返りました。そしてこの原点から、～来て頂いた全ての方のために～という意味を込めて、Young and old unitedの頭文字であるY・O・Uをとり、YOUを本年度のトリアス祭のテーマとし、全ての活動を行ってきました。

本年度のトリアス祭は11月2日に前夜祭、3・4・5日に本祭を行いました。例年と大きく異なる所は、前夜祭前の仮装行列を今年は思い切って廃止し、本祭当日に模擬店の売り子さん達が全員仮装をしたところです。この企画も来て頂いた全ての方のために楽しんで頂きたいという想いから行ったもので、まずまず評判は良かったと感じております。その他(オープンキャンパス、医療展、院内喫茶等)は例年通り順調であり、特に昨年からはじめた「それが聞きたい!」に引き続き、先生方に多数参加していただいた「先生、質問です!」は寒い中盛り上がり、とても意義のあるものとなりました。

また本祭前の6月に行った今年らしさを活かした、ワールドカップ観戦企画や、ナイトラウンジ、スポーツ大会も学生だけでなく、多くの方々に参加していただくことができ、大変満足行く結果となりました。

準備期間中、本祭中、また終了後も、多

くの方々にご迷惑をおかけしましたが、たくさんの方の御理解と御協力を頂いたことでなんとか成功に導くことができました。本当にありがとうございました。特に井端学長や、高松学生部長を始め、各教室の先生方には大変お世話になり、講義では得られないことを学ばせていただきました。さらに、学生課を始め、大学の職員の方々、病院の職員の方々には普段以上にお世話になり、大変感謝しております。

そして、一年間共に活動してきた実行委員会の面々とは、ときには喧嘩することもありましたが、各々一回り成長することができたと考えています。

最後になりますが、このトリアス祭を通じて本当に沢山のかけがえない財産を得ることができたと感じております。このような貴重な経験はそう滅多にできるものではないと思います。そして後輩達がトリアス祭をよりすばらしいものにし、さらに引き継いでくれることを願っております。



実行委員会の面々

学内ニュース

医療安全対策研修会

～医療の質と安全を考える - 組織的な質管理 Clinical Governance の確立が患者と医療者をまもる - ～

平成14年12月13日(金)、図書館ホールにおいて、医療安全対策研修会を開催し、勤務の合間を縫って医師、看護師をはじめとして150名を超える参加者に集まっていたきました。

この研修会は、高度・先進医療の進展に伴い、診療行為の機能分担が進みチーム医療が不可欠となっている現在、職員一人ひとりが安全管理に対する意識を深めることが重要となっているため、医療安全対策に関するテーマについて研修会を開催し、対応能力の向上を図ることを目的として、本院において定期的で開催しているものです。

当日は、横浜市立大学医学部医療安全管理学教授であり、附属病院における安全管理責任者を務めておられる橋本進生先生を講師に迎え、『医療の質と安全を考える - 組織的な質管理 Clinical Governance の確立が患者と医療者をまもる -』と題して御

講演をいただきました。

橋本先生からは、「医療の安全はそれのみを追求しても確保することは困難で、①医療の質(Quality)の向上、②患者への親切的な対応(Hospitality)の向上、③安定した経営・組織基盤(Sustainability)の確立の総和として確保されること、そのためには、Clinical Governance(診療品質に関わるルール・常識の共有)が重要である」ということについて、医療安全管理に係る先進的な取組を進めている横浜市立大学附属病院の事例を交えてお話をいただき、普段医療安全対策に苦心しながら取り組んでいる参加者にとっては非常に関心を引くものでした。

研修会後のアンケートでは「自分だけでなく組織全体で取り組むことが大切」「他大学附属病院の取組と本院での取組に違いがあることに印象を受けた」といった意見

とともに、「ヒヤリ・ハット事例についてもっと現場での検討が必要」「職種間にまたがる事例など意識を共有し、病院全体で取り組んで行かなければならない」など日頃改善を要すると考えていることについて反省の意見も寄せられ、参加者の医療安全に対する意識を改める上で有意義な研修会となりました。

本研修会は、今後も、より有意義な研修会を開催していきたいと考えております。今回の研修会に参加いただけなかった方々も、次回開催時には是非ご参加いただき、医療安全に対する知識を深めていただきたいと思います。

また、研修会で取り上げてほしい題材などがありましたら、今後の参考とさせていただきますので、メールにて病院管理課(ijikak@koto.kpu - m.ac.jp)あてお知らせください。



意識を改める上で有意義な研修会となりました。



講演に聴き入る参加者



熱心に講演される橋本先生

特 集

こんなことができます！糖尿病看護認定看護師

1998年の厚生省の糖尿病実体調査では糖尿病が強く疑われる人が690万人、糖尿病の可能性を否定できない人を合わせると1370万人と推定されており、糖尿病は生活習慣病として国民のもっとも重要な健康問題となってきました。しかし生活が多様化し、多忙を極める現代では、その生活習慣を顧みる余裕がなかったり、療養行動に取り組むことが容易でない事例が増えてきました。糖尿病患者が増加する一方で、糖尿病患者への支援の主な方法は医療者主導型のアプローチつまり、糖尿病の知識を提供しその方法を遵守してもらおうという指導方法で、それはまだまだ行われています。しかしこの方法だけでは効果がない、糖尿病患者はコンプライアンスが悪いと日々の臨床場面で無力感を感じることも少なくないのではないのでしょうか。近年は医療者主導型のアプローチではなく、糖尿病患者が責任を持って自分の生活と折り合いをつけながら病気とともに生きていく事を支援するセルフマネジメントのアプローチ方法、エンパワーメントが主流といわれており、効果を上げています。糖尿病患者に対し援助の糸口をみだし患者の主体性に働きかける自己管理への援助の実践のために、2001年認定看護師制度に糖尿病の分野が開設されました。

認定看護師の役割りは実践・指導・相談の3つとされています。私の活動状況ですが、実践においてはD7病棟所属ですので、入院患者様に日々接するなかで入院前の生活を振り返っていただき実生活で生じた看護問題を自己で見出せるように関わっています。そして患者の能力を十分に発揮し、自尊感情を低下させることなく療養行動を継続できるように、病棟スタッフと共に支援しています。外来では月1回第3水曜日に糖尿病相談室を開いています。日常生活を送っていく中で療養行動を行っていることの困難さを聴きながら、患者様個々に合わせた療養行動が見出せるように共に考えています。このひとつひとつの事例の積み重ねが私自身のスキルアップに繋がると考えています。

指導については、病棟であるいは外来でのスタッフの相談に応じたり、病棟や院内での学習会を行って知識の提供を行っています。相談（コンサルテーション）は他病棟あるいは他職種からの依頼はまだ受けたことがありませんが、常時受け付けていますのでリソースナースとして上手く活用していただけたらと考えています。認定看護師としての日も浅く手探りの日々ですが実践を積み重ねることで自信をつけていく時期と考えています。今後の私の課題は病棟



D7号病舎 肥後直子

と外来との継続看護です。糖尿病は慢性疾患で一生続く疾患である特徴を考えると、患者様のセルフケアが重要になってきます。入院された患者様が再入院しないですむように、外来で継続した支援ができることが課題であり責務と考えています。

まだまだ未熟者で、生来の天然ボケも炸裂しながらの活動状況ですが努力を惜しませませんので暖かく見守ってください。よろしくをお願いします！

糖尿病相談室ができました！！

毎月第3水曜日

9：00～12：00

うまくコントロールができないなあ

糖尿病はつらいなあなど

日頃のがんばりやうつぶんをお聴きします。

是非一度お立ち寄りください。

足のお手入れも行っています。

お待ちしております。

糖尿病看護師 肥後&光木

「糖尿病相談室」の案内チラシ

お知らせ

「豊かで優れた人権感覚を」 ～平成14年度教職員人権啓発研修～

本学が府民から信頼される大学・医療機関として発展していくためには、医療を提供する私たちスタッフ一人一人が常に人権について意識し、「豊かで優れた人権感覚」をもって患者さんに接するとともに、職場の中においてもお互いに相手の身になって考え、行動することが必要です。

そのような中で、本学におきましては、人権教育のための国連10年京都府行動計画に基づき、同和問題、女性、高齢者、障害者、外国人、HIV感染者など、様々な人権問題を対象とした教職員研修を実施しております。

平成14年度については、3講座の教職員研修を予定しており、既に「国際人権保障」と「ハンセン病」の2講座を実施し、500名を超える教職員の方に参加いただきました。

今年度最後の講座となります第3回目の研修は、来る3月3日(月)3月4日(火)に「患者の権利保障と被害救済」(仮題)についての講演を実施する予定ですので、積極的に参加いただき、少なくとも年1回は受研いただきますようお願いいたします。

平成14年度第1回教職員人権啓発研修の概要

日時：平成14年9月27日(金)13:30～16:00

平成14年10月2日(水)13:30～16:00

場所：本学図書館ホール

講師：(財)世界人権問題研修センター所長
同志社大学教授 安藤仁介

講演名：国際人権保障の実態
～国連規約人権委員会委員の経験から～
人権啓発映画：メール



安藤仁介 講師

平成14年度第2回教職員人権啓発研修の概要

日時：平成14年12月9日(月)14:30～16:00

平成14年12月10日(火)14:30～16:00

場所：本学図書館ホール

講師：国立療養所邑久光明園
園長 牧野正直

講演名：人間回復のかけはし
～ハンセン病の歴史に学ぶ～



牧野正直 講師

平成14年度第3回教職員人権啓発研修の開催予定

日時：平成15年3月3日(月)14:30～16:00

平成15年3月4日(火)14:30～16:00

場所：北臨床講義室

講師：島田和俊弁護士

講演名：患者の権利保障と被害救済(仮題)



研修風景

防災に関する取り組みについて

平成15年1月15日から1月21日は、災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図ることを目的として「防災とボランティア週間」とされており、各地で防災訓練や避難訓練が行われています。

本学でも、1月21日に関係所属で通報訓練や招集訓練などの防災訓練が行われるとともに、昨年11月20日には消防訓練が4病棟で行われるなど、防火・防災に対する取組を進めています。

現在の複雑多様化した社会においては、ひとたび災害が発生すると、その被害は計り知れないものがあり、その被害を最小限に抑えるためには日頃からの備えを充実すると共に、非常時にいち早く、いかに効果的に対応を行うかが重要になります。

本学では、昨年3月に京都府立医科大学防災計画と同行動マニュアルを策定しました。

平素から、各所属で確認・点検をお願いしているところですが、緊急時のマニュアルとして効果的なものとなるよう、これを機会に今一度見直しをしていただくとともに、所属単位でも防災に関する取り組みを推進いただきますようお願いいたします。

医大2002年を振り返って

2002年を振り返って、本学の主な出来事を紹介します。(学事関連、府、教職員関連の出来事)

1月

- 19 大学入試センター試験(～20)
- 28 短大専攻科入学試験
- 30 平成14年度大学院入学試験(2次日程試験)

- 12 府立の大学あり方懇話会設置
- 25 附属病院オーダリングシステム稼働(外来系)

2月

- 8 看護学科推薦入学試験
- 12 短大専攻科入学試験合格発表
- 21 保健師国家試験
- 22 助産師国家試験
- 22 平成14年度大学院入学試験(2次日程試験)合格発表
- 22 看護学科推薦入学試験合格発表
- 24 看護師国家試験
- 24 看護学科一般入学試験
- 25 医学科入学試験(前期日程試験、筆答・面接)(～26)

- 4 二月府議会定例会(～3/8)
- 4 山田副知事退任

3月

- 1 大学卒業式・大学院修了式(学位授与)
- 7 医学科入学試験(前期日程試験)最終合格発表
- 8 短大卒業式
- 8 看護学科一般入学試験合格発表
- 12 医学科入学試験(後期日程試験、筆答・面接)
- 16 医師国家試験(～18)
- 22 医学科入学試験(後期日程試験)最終合格発表
- 29 看護師、保健師、助産師国家試験合格発表

- 11 救急対応病床設置
- 12 京都迎賓館起工
- 15 外来診療棟玄関ホールのリニューアル
- 30 第16回院内コンサート

4月

- 1 医学部看護学科開設
- 4 大学入学式
- 4 短大専攻科入学式
- 5 大学院入学式
- 20 医学科新入生宿泊研修(～21、ゼミナールハウス)
- 23 歯科医師国家試験合格発表
- 25 医師国家試験合格発表
- 28 対東京慈恵会医科大学定期戦(～5/3・京都)

- 1 府立医科大学下鴨グラウンドを設置
- 7 京都府知事選挙
- 10 新規採用職員部局別研修
- 15 荒巻知事退任
- 16 山田知事就任、初登庁

5月

- 18 解剖体春季追悼式
- 24 エディンバラ大学派遣学生報告会

- 1 研修医オリエンテーション(～2)
- 9 教授停年退職記念式典
- 12 看護の日
- 15 五月府議会臨時会(～17)
- 17 草木副知事、梅原出納長退任
- 18 麻生副知事、竹内出納長就任

6月

- 1 病院長補佐、病院管理運営会議の設置
- 1 府職員定期人事異動
- 1 庁内ワークシェアリングによる雇用開始
- 19 京都府開庁記念日
- 19 医大ボウリング大会
- 20 第17回院内コンサート
- 27 六月府議会定例会(～7/13)

7月

- 1 学長と新入生の懇談会(7/3)
- 14 OSCE(共用試験)試行
- 28 西日本医科大学生総合体育大会(～8/12)

- 9 医大スポーツ祭典(～24)

8月

- 1 大学、単位互換制度提供科目事業実施(～2)
- 1 短大、単位互換制度提供科目事業実施(～2)
- 29 短大人権・同和教育講座(～30)

- 5 平成15年度研修医募集要項告示
- 24 関係病院等協議会総会

9月

- 2 大学院入学試験募集説明会

- 1 院外処方箋の原則発行
- 20 第18回院内コンサート
- 25 地域医療連携室開設
- 26 九月府議会定例会(～10/11)
- 27 教職員人権啓発研修(10/2)

10月

- 19 解剖体秋季追悼式
- 31 平成15年度大学院入学試験(1次日程試験)

- 7 「国立国会図書館関西館」開館
- 15 佐村副知事就任
- 15 看護師採用選考試験(第一次)
- 16 厚生会テーブルマナー講習会
- 19 府立医科大学公開講座
- 20 平成15年度研修医試験
- 26 職員ふれあいフェスタ2002(太陽が丘)
- 31 京都府院内臓器移植コーディネーター認定制度の創設

11月

- 1 本学創立記念日
- 2 トリアス祭前夜祭
- 3 トリアス祭(～5)
- 29 平成15年度大学院入学試験(1次日程試験)合格発表

- 1 一般病棟の入院基本料をⅡ群からⅠ群に変更
- 4 第19回院内コンサート
- 6 禁煙啓発研修(～8)
- 10 府立医科大学公開講座
- 12 看護師採用選考試験(第二次)(～14)
- 13 ノーベル化学賞受賞の田中耕一氏(島津製作所)に京都府特別栄誉賞を授与
- 20 医大消防訓練(こ4病棟)
- 22 平成15年度研修医試験合格発表

12月

- 19 大学院医学研究科の再編に係る協議申請に対し、文部科学省の承認

- 1 京都府地方機関再編整備等推進本部の設置
- 1 廃棄物処理システム稼働
- 2 十二月府議会定例会(～17)
- 9 教職員人権啓発研修(～10)
- 22 第20回院内コンサート「院内クリスマスコンサート」